

東日本大震災被災地応援実行委員会たより

轍わだち

2017. 12. 11 NO. 94

応援の絆がひろがった！

クリスマスが近くなると、私たち実行委員会は被災地の友人たちにプレゼントを準備する活動が始まる。「気持ちを届ける」ことを大切にして、必要な品物を尋ねながら品物を揃えていく。今年は気仙沼の社会福祉協議会の方々から、新たに支援を求めている人を紹介していただいた。「復興が進めば進むほど、経済格差が広がり、被災者間の溝が深まる」と言われている。私たちの学校はどんなときも「困っている人に寄り添う」ことを大切にしてきた。あの日から6年と9ヶ月被災地にはまだまだ、途方にくれている人がいることを心に留め、私たちの心を送り届けたいと思う。熊本の被災者には聖三一教会を通じて、つながりのある方々に必要な品物を届けていただく事になっている。

ホッカイロのリクエストが届いています！

みなさんの中に、何かプレゼントをしたいと思われている人は、

ホッカイロを寄附してください！！

発送作業は12月20日終業式当日に行うので

その日までに最寄りの実行委員にお寄せ下さい。



あすKYOフェスタ活動報告

11月23日(祝)京都植物園で開催された「あすKYOフェスタ」で、被災地応援活動を行いました。毎年好評の気仙沼マルタ水産の茎わかめのしば漬け、共同作業所製作のバックや小物を販売しました。募金活動と同時に被災者のお話や、福島を訪問した先輩のお話を聞く機会も与えられました。



ステージで活動の紹介や物品の販売・募金のお願いをしたり、被災地クイズをしたりしているところ

募金額は 23,577円 でした。すべてクリスマスプレゼントの購入費用として使わせていただきます。

今春卒業した先輩の活動

11月23日激励に来てくださったM先輩。大学では「被災地と復興」を学ぶ講座を受講しているそうです。そのため福島を訪問し、東京電力の方々からも当時の事故の様子を聞いたりしながら復興の現状を見聞し、考え方も深まっているそうです。特に情報の捉え方については慎重が必要であると教えていただきました。

被災者からのメッセージ

5年前に本校で講演をいただいた高木さんも11月23日には隣のブースで支援活動をされていました。そこで、みんなで高木さんからお話を聞かせていただきました。避難されている方々で出版された書籍をいただいたので、その一部をご紹介します。

命を産んだ母として…… 高木久美子（いわき市から京都市）

昨日と今日の暮らしが一変した3・11東日本大震災。たくさんの人々が津波により命を落としました。悲しみも癒えぬまま、福島第一原発事故による放射能汚染という最悪な事態をむかえ、私たちの家族のその後の運命を大きく変えることになりました。

健康被害への不安から避難したいという思いがあり、私の母にお願いし、子どもたちと一緒に一時的に秋田へ避難してもらいました。しかし、心身ともに疲労困憊し、私は限界を超えた精神状態の中で、いわき市での暮らしを余儀なくされていました。

震災から翌年の2012年2月、いわき市の汚染状況もまったくわからない中、ネットで避難や移住について発信していた早尾貴紀さん（311受入全国協議会共同代表）に「いわき市は、空間線量は下がってきているが土壌汚染は免れない」と教えていただき、周囲の反対を押し切り京都へ避難する決断をしました。とにかく子どもたちを放射能汚染から遠ざけ、これまで通りの普通の暮らしをさせたい。将来の健康被害を考えると5年後、10年後、親として後悔しない選択をしたいという思いが強く、差し迫る思いで子ども2人を連れてやっとの思いで京都に避難を完了したことは、つい昨日のように思い出されます。食べ物の心配もなく、マスクをはずして暮らせること、洗濯物を外へ干せる喜び。当たり前だった日常を取り戻すように重かった心が元氣になっていきました。

しかし、原発事故は風化の一途をたどり、被災者の命や健康より経済優先。この国を誰に言ったら変えてもらえるんだろうと、普通の親の自分が途方に暮れる日々でもありました。友人の一人が世論を変えていかなくてはならないと教えてくれました。しかし福島に住んでいる人たちは日々刻々と放射能にさらされているので、ゆっくりしている場合ではないと思う日々。

子どもたちの成長を願い、慎ましく暮らしていた私たち家族は、司法の場で国と東電を訴える集団訴訟に加わりました。一番の理由は、自分たちさえ避難すればそれでよいとは思えず、「福島に残っている大切な人たちのためにも立ち上がる！」「普通の親が立ち上がらなくては子どもたちは守れない」そんな思いからです。平成29年5月26日（金）第28回期日、証人尋問を迎えました。主尋問5分の中でこの苦しみ、訴えを伝えることは大変なことでした。

この書籍には高木さんの他にも避難者の思いが綴られています。関心のある方にはお貸しします。

あなたもいっしょに応援活動に参加しませんか！

私たちのすることは大海のたった一滴の水にすぎないかもしれませんが、でもその一滴の水が集まって大海となるのです。

マザーテレサ

